

## 事業報告書 (令和 3 年度)

事業名 SDGs に取り組むESDによる地域教育力育成事業

団体名 岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会 担当者名 柏崎 希

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

#### ■環境てんけん 2021 身近な環境調査■

日時：2021年10月30日（土）9:30～12:30

場所：京山地区内用水路、県総合グラウンド

参加対象者：小学生から社会人まで

参加人数：93名（学生ボランティアを含む）

内容等：持続性を損なっている地域課題を見つけ解決に取り組む市民を育てることを目指し活動に取り組んだ。はじめは2班に分かれ座主川、岡山県総合グラウンドで水辺の生き物調査・水質調査、植物と大気、騒音の調査等を行った。その後合流し、観音寺用水「緑と水の道」で水辺の生き物調査と水質調査を実施、生き物について解説してもらった。また水路内及び周辺部のごみのポイ捨て調査と回収、水路内の保全（川床保全・防火マスの掘り出し等）も行った。その後公民館に戻り、活動の感想を用紙に記入した。





■SDGs 健康ウォークラリー■

日時：2021年11月13日(土) 10:00~12:30

場所：京山中学校区全域

参加対象者：子どもから社会人まで

参加人数：67名(学生ボランティアを含む)

内容等：コロナ禍の中、家に閉じこもりがちで運動不足な人が増えているという課題に対し、密にならず感染症対策が取れるイベントとして企画した。SDGsの視点から見た京山中学校区内の見所をピックアップし、3コースを設定した。見所選定、クイズ作成、コース設定等、チェックポイントとなる企業等との交渉については大学生ボランティアを募集し、主体的に進めてもらった。また当日運営には高校生ボランティアにも関わってもらった。1.5km、3.5km、5kmという距離を変えたコース設定にしたので、小さい子どものいるご家族や健脚の方まで、楽しんで参加してもらえた。自分たちの住む地域の魅力を再発見し、SDGsについて理解を深める機会ともなり、学生と地域の方との交流もできた。





## ■京山地区 ESD・SDGs フェスティバル 活動団体発表会■

日時：2022年2月18日（金）15:30～18:00

場所：京山公民館

参加対象者：学校関係者、保護者等

参加人数：30名（オンライン視聴含む）

内容等：テーマ「京山からはじめよう！SDGs でつながる未来」

規模を縮小し人数を絞ってフェスティバルを開催予定だったが、新型コロナウイルス感染急拡大のため、学校園の活動団体発表会のみを実施した。事前収録したVTRを使用し、発表内容について、ゲスト（岡山市教育委員会指導課、元京山中学校長、岡山ESD推進協議会会長）からコメントをいただいた。また、児童生徒の保護者で希望した方には、Zoomを利用し視聴していただいた。

小・中・高生の発表VTRでは、防災や福祉のまちづくり、水質浄化に関するそれぞれの学びや、クリーン作戦についての発表があり、地域の学校現場でどんな学びや活動が行われているかを、共有することができた。後日DVDを各学校園に配布し、ゲストからいただいたコメントをお伝えすることとしている。

また、今後感染状況が落ち着いてくれば、活動紹介ポスター展示やSDGs交流会、西粟倉エコツアー（2022年3月25日予定）等も実施していく予定である。



## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ESDの視点としては、継続的に学社連携・全世代合同で地域の環境てんけんを行うことで、持続性を損なっている地域課題や変化に気づき、持続可能性向上や保全に主体的に取り組む市民を育てるということと、つながりを意識し、原体験やコミュニケーション能力（「生きる力」）などを育むという点を重視した。多世代間の学び合いの場を増やすとともに、特にSDGs健康ウォークラリーなど、高校生、大学生、社会人ユースといった次代を担う若者達が主体的に参画する場を強化し、地域教育と人材育成のさらなる充実に努めた。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍による活動の制約を強く受けたため、計画していた活動の多くが中止や計画変更せざるを得なかったが、その中で実施できた環境てんけん活動やSDGs健康ウォークラリーは、昨年度以上に周りへの配慮や思いやりの心を育み、自分たちだけでなく地域社会全体を視野に入れ、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念をもった意識と行動が、特に参画した10代から20代の若者を中心に浸透していったことは大きな成果と言える。ここ京山地区は文教地区ということもあり、3つの高校と3つの大学が地区内にあるおかげで、多くの高校生や大学生が参加してくれているが、そのほとんどはこの地区外の住民で、通学のためにこの地区に来ている学生達である。このため、毎年、参加する学生メンバーが大きく変わっていつている。そのことは継続的発展という点ではつらいところだが、毎回、新しい若者を育成できているという点では大きな成果があると言える。近年、高校も大学も地域のボランティア活動への参加を強めているだけに、高校や大学との連携の仕組みができているのは当地区の大きな強みであり、ESDを先駆的に推進する文教地区としての大事な使命と思っている。スタッフとして企画からボランティア参加した学生達のふりかえり（感想）などを見ると、企画から主体的に関われたことが、本人の意識と行動を大きく変容させていることがわかる。参加者をいかに「お客さん」にしないか、「主体的な参加者」にできるかで、成果は大きく異なることを本年度の取組を通して強く感じた。

### 4. 今後の課題と展望

高校生や大学生は、一部に積極的に自分から地域に飛び込んで活動する学生もいるが、多くはそうした活動の機会や場に参加する必然性（授業の一環とか）をもたせてやることで参画・参加という一歩が踏み出せている。このはじめの一歩がとても大事なのだが、当地区においてもまだまだ不十分な段階にある。今後は、高校や大学などにより一層連携を強めて、はじめの一歩を踏み出せる学生を増やしていきたい。そういう点でも、京山地区で独自に進めている「京山ESD・SDGsフェロー（推進員）」の認定者をさらに増やしていくと共に、認定された人が活躍する場、新たな人財を発掘・育成する場をもっと創出していきたい。また当協議会は、2021年度「第11回毎日地球未来賞」で「SDGs未来賞」を受賞できたが、審査員からいただいたコメントの中に「もう少し横展開を考えても良いかもしれない」というアドバイスがあった。当協議会としても「やさしく走ろう京山運動」など、地区外との横連携を進めてきてはいるが、横展開という点ではまだまだこれから進めていくべき課題だと感じている。今後は、横展開を視野に入れた活動や取組にもより一層力を入れていきたい。